

魚介類中のPCB検査結果(令和2年度)

令和2年10月に中央卸売市場本場で収去した市内に流通する魚介類5種5検体について、PCBの検査を行いました。その結果、表に示すとおり全ての検体で不検出でした。

表 PCBの検査結果

食品の種類	検体数	検出件数	結果	暫定的規制値
遠洋沖合魚介類	マイワシ	1	0	0.5ppm
	マサバ	1	0	
内海内湾魚介類	イサキ	1	0	3ppm
	ブリ	1	0	
	マアジ	1	0	
計	5	0		

(検出限界:0.01ppm)

《PCBについて》

PCBとは、ポリ塩化ビフェニル(Poly Chlorinated Biphenyl)の略称で、ポリ塩化ビフェニル化合物の総称です。理論的には209種類の異性体があり、ダイオキシン類に分類される異性体も含まれています。

PCBは化学的に安定で、不燃性、高絶縁性などの特徴を持つため、トランス(変圧器)、コンデンサー(蓄電器)などの様々な用途に使用されてきました。現在は新たな製造が禁止されています。PCB使用製品及びPCB廃棄物は定められた期限までに処分する必要があります。

PCBは分解されにくく、脂肪に溶けやすい性質があるため、環境中に放出されたものは食物連鎖の上位に位置する生物に蓄積され、魚介類、肉類、乳製品などに汚染が広がりました。また、大気や海洋などの循環により拡散し、北極圏などPCBを使用していない地域のアザラシやクジラなどの生物にも高濃度に蓄積されていることがあり、地球規模での汚染が問題となっています。

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】